



地域に小学校が無くなっていいのでしょうか？

子どもたちのために適正規模以上の小中一貫校が必要。1学年が単学級学校規模が100人を切るような小規模校ではダメ。小中一貫教育を進めるためには同一敷地内に一貫校があることが大切。



掛川市はこの方向で、学校の再編をすすめようとしています。人口一人あたりにかかる教育費がもつとも低い県は人口密度の高い神奈川県、静岡県もビリから6番目。もつとも額の高い島根県は神奈川県と半分ほどです。

経費削減は、学校の数を減らし、定員いっぱいの子ども、基準いっぱいの建物やグラウンドで大規模な学校をつくり、教員数も削減させるのが最も手取り早い方法です。これはこどものためでしょうか？大人の都合じゃないですか？コロナ緊急対応時「ソーシャルディスタンスなんてできない！」と悲鳴を上げたのは中心部の大規模校。学童保育も定員もいっぱいに詰め込んでいる大規模校ほど大変でした。

コロナ危機を経験して、諸外国からも遅れている適切な規模への見直しを期待しましたが、そういう方向にはすすんでいません。小中学校の建設費などは設置者である市の予算が上がってきます。膨大な額です。しかし、実は多くの部分が国や県から補填されます。教員が県の公務員で給与も県から出ていることはご存じでしょう。本当のところでは学校の統廃合を強力に押し進め、教育費への財政支出を押しさえ込もうとしているのは誰でしょうか？

彼らは私たち地域の豊かな未来を守ろうと真剣に考えているのでしょうか？

「地域に小学校はいらない。適正規模の一貫校が適正配置されることが大事。」という前提自体が本当にそれでいいのか検証する必要があると私は思っています。

「学校は地域の太陽。そんな夢物語をいつている時代ではない」という発言をする議員さんもいました。

教育に、子どもにお金がかからない国に未来なんてあるのかなあ、と私は思うのですが・・・

環境資源ギャラリーについて

掛川市と菊川市で運営している環境資源ギャラリー。ごみの処理場です。

一昨年は焼却施設が故障して市民に緊急事態宣言を出して協力をあおぎ、静岡市までごみを運んで処理してもらった。昨年よりはリサイクルプラザという不燃物処理施設がリチウム電池が原因ではと推測される火災で稼働不可能になり、現在焼津、富士宮、そして遠く三重県の民間業者に不燃物を搬出していきます。

耐用年数が迫っているからと修理もしていません。公共の責任で行なうごみ処理としてちょっと大丈夫なのという声も聞かれます。運営やメンテナンスが適正だったのか、耐用年数前に起こった不都合はそもそもこの施設はどうだったのかなど疑問を感じます。

施設更新にあたって企業が提案してきたのが公民連携方式で現在の倍規模の施設を民間に建てさせ、そこに市のごみ処理を委託する方式です。

市のごみだけでなく事業系の産業廃棄物も受け入れ、ごみ発電もして儲けも出ます。災害時の受け入れもしてもらおうとの説明でした。

自治体のごみ処理を民間産業施設で？

市の土地に民間の会社に施設を建ててもらおう？

ゴミ処理は大切な自治体の仕事です。3月に議員への説明会が予定されています。同じ形で先行して計画が進んでいる他市の事例も検証してしっかり対応していきたいと思えます。



2月定例会はじまります

2/22(火)～
3/24(木)
一般質問の他、
2022年度予算等の審議があります。



お城の脇に桜が1本だけ開花。春が待ち遠しいですね。